

5月20日 1年生 学年集会での講演依頼者について

校外教育係（林間学校の事前指導）・親林教育，双方の観点から，
本年は，日本熊森協会という自然保護団体の会長をつとめる「森山まり子」氏に講演を依頼
したいと考えています。3月7日に森山氏の講演を聞きに行き，本校の親林教育への取り組
みについても伝えて来ました。大変賛同をしてくださり，ぜひ講演をしたいと言ってくださ
っています。

氏名；森山 まり子 氏

1948年兵庫県尼崎市生まれ
※兵庫県立神戸高校から大阪教育大学に進み、物理を専攻
2003年春までの31年間、公立小・中学校理科教師
1992年に、尼崎市立武庫東中学校の生徒たちと、絶滅寸
前兵庫県野生ツキノワグマの保護に立ち上がる。
1997年、実践自然保護団体日本熊森協会を結成。



※3月には国会議員に対しての勉強会で講演するなど，全国で講演経験があります。
2月には高槻中学校（大阪）で講演を行っており，本人も元教員であることから，
教育現場のことはよくご存じであると思います。

（以下 HP より）

演題「クマたちが棲む、豊かな森を次世代へ」

一人でも多くの方に日本の森や野生動物の危機、自然保護の必要性を伝えたい。
豊かな自然を守るために実践活動をする喜びを、楽しさを伝えたい。
子供たちが将来、みんなで手を取り合って環境問題の解決へ向けて進んでいけるような社会
を作りたい。そんな願いを胸に、日本熊森協会は講演と環境教育に取り組んでいます。

講演要旨

祖先が手付かずで守ってきた「奥山」の自然林は、戦後の国土総合開発計画や拡大造林政
策、道路、スキー場建設などにより荒廃し、野生動物たちは、すみかさえ失った。空腹に
耐えかねた動物たちは、生きるために人里に出てきて農作物をあさるようになり、有害
獣として駆除され続けている。地元の人たちもまた、増える獣害に悲鳴を上げている。し
かし、大型野生動物たちと、かれらが造る豊かな森を残さなければ、私たち人間もまた、生
き残ることはできないのだ。